

令和6年度みえ介護生産性向上支援センターの事業 実施状況について

令和7年2月28日

みえ介護生産性向上支援センター運営事業共同体

一般社団法人三重県介護福祉士会
公益財団法人介護労働安定センター三重支部

みえ介護生産性向上支援センターの連携体制

三重県介護現場革新会議

委員

- 介護関係団体等
 - サービス事業所団体
 - 職能団体
 - 県社協
- 関係機関・団体
 - 管内の市町
 - 雇用関係機関・団体（労働局等）
 - 中小企業庁よろず支援拠点（経営）

会議主催者

- 都道府県担当部署

みえ介護生産性向上支援センター受託者

■ 取組内容

- 地域の課題の共有や各機関の取組共有
- 生産性向上の取組方針検討（センターの活用も含め、周知啓発・モデル事業所の育成、モデルの横展開、各機関の連携、効果の把握等）

情報提供
事業の協力

協議体の議論も踏まえ事業化
事業の委託（地域医療介護総合確保基金の活用）

制度改正・基金予算
他都道府県の取組共有

みえ介護生産性向上支援センター

<主要な取組>

- a. 相談受付
- b. 介護ロボット・ICTの展示
- c. 試用貸出
- d. 研修会の実施
- e. 伴走支援等
- f. 生産性向上の関連情報の収集・提供
- g. 事業の周知
- h. ネットワークの構築

<その他の取組>

- 介護ロボット・ICT導入等の支援事業の運営事務
- 都道府県版介護現場革新会議の運営支援

厚生労働省

介護ロボットプラットフォーム事業 （中央管理支援の取組）

専門家の育成
各窓口情報共有

制度改正、報酬改定等

相談等

事業の実施

モデル事業所等として協力

介護サービス事業所

みえ介護生産性向上支援センターの事業実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
広報			チラシ・ポスター・WEBサイト・SNS・関連団体・事業所への訪問										
介護現場革新会議				第1回								第2回	
相談窓口/個別支援			随時										
伴走支援				支援先の選定・専門家派遣による伴走支援									
研修会						第1回	伊勢市	第2回		御浜町			
展示会						第1回		第2回		御浜町			
展示会(見学式)				随時							あけあい会		
ICT機器貸出			随時										
好事例作成				事業所訪問								事例集完成	
経験交流会												3/7	

みえ介護生産性向上支援センターの相談窓口①

介護現場における生産性向上の取組を推進するため、介護サービス事業所等からの業務改善等に関する各種相談対応や介護ロボット・ICT機器導入等の支援を行う総合相談窓口「みえ介護生産性向上支援センター」を令和6年7月1日に開設

実施体制

- (1) 開設日
令和6年7月1日（月）
- (2) 開設場所
津市栄町3丁目243 関権第三ビル506
- (3) 運営方法
みえ介護生産性向上支援センター運営事業共同体
（一般社団法人三重県介護福祉士会/公益財団法人介護労働安定センター三重支部）
- (4) 支援対象
三重県内の介護サービス事業所等
- (5) 目的
 - ・ 介護生産性向上のための総合的な相談窓口となり関係各所にスムーズに繋ぐ
 - ・ 問い合わせは専用ダイヤルへの電話、またはWEBサイト内の相談受付フォームが利用できる
 - ・ 電話は平日9～17時の対応、相談受付フォームは24時間（※送信のみ）可能
 - ・ 2回目以降のやりとりは電話以外にも、メールやオンライン面談、訪問等、効果的な手段で行う
 - ・ 専門家相談は90～120分とする。専門家派遣の前に当事業職員により事業所ニーズの把握など必要な情報収集を行う

みえ介護生産性向上支援センターの相談窓口②

- 事業所からセンターへ寄せられた相談件数は、52件。（令和7年1月時点）
- 相談ニーズの掘り起こしや情報提供のため、介護事業所、市町、関係機関へ訪問（151件）
- 相談内容は、介護ロボット導入やセンター事業に関する問い合わせが多い。
- 相談事業所のサービス別には、特養13件、老健9件など、施設系サービスが全体の42.3%

* 電話・メール含む

相談件数		52件（R7.1時点）
内 訳	相談内容別	介護ロボット導入（7件）、介護ロボット補助金（6件）、介護人材（4件）、職員研修（6件）、センター事業内容（9件）
	相談事業所のサービス別	特養（13件）、老健（9件）、有料・サ高住（8件）、通所（4件）
	相談事業所の地域別	北勢（23件）、中勢（18件）、南勢（2件）、伊賀（7件）、東紀州（1件）
うち専門家派遣（28件）		<ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上に関する課題を解決を図るため、個別相談支援を実施（24件） ・職員意識の課題を解決を図るため、セミナー実施支援を実施（4件）

成果と課題

- 相談窓口は、センター事業の認知度のアップが必要と思われる。事業内容を含め周知活動が必要である。市町及び関係機関との連携がより必要。
- 生産性向上に関する課題は、電話相談で解決できないことが多く、人員不足を起因とした生産性向上に取り組む必要性への意識は持っているものの、一步を踏み出せない（課題把握もできていない）事業所が多いと思われる。巡回訪問やサービス別研修会開催など、きめ細かな課題の掘り起こしが必要。
- 専門家派遣は、個別相談での専門家派遣の要望が多く、その要望に応じた専門家人数増を検討する必要がある。

生産性向上の取組に関する研修会、介護ロボット・ICT機器の展示会①

研修会

- ・厚生労働省『介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン』『介護サービス事業所におけるICT機器・ソフトウェア導入に関する手引き』などをベースにした研修を行う。
- ・因果関係図などの課題発見ツールをグループのワークショップ形式を実施することで研修の効果を高める。

展示会

- ・介護ロボットの6大分野（厚生労働省・経済産業省策定のもの（下記参照））の全ての機器の展示を行う。
- ・南北に長い三重県の地理的特徴や人口分布性に配慮し、北勢地域と、中南勢地域で1回ずつ行う。
- ・一般の方への周知（連携機関やSNS、WEBサイト、介護フェアなど）を図るとともに福祉用具・機器に触れる機会とする。

介護サービス事業（施設サービス分）における
生産性向上に資するガイドライン

施設・事業所向け手引き

より良い職場・サービスのために
今日からできること
（業務改善の手引き）パイロット事業令和2年度版



課題発見ツールの因果関係図を使ったワークショップ

【介護ロボットの6大分野】

<h3>移乗支援</h3> <p>○装着</p> <p>・ロボット技術を用いて介助者のパワーアシストを行う装着型の機器</p> <p>○非装着</p> <p>・ロボット技術を用いて介助者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う非装着型の機器</p>	<h3>移動支援</h3> <p>○屋外</p> <p>・高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器</p> <p>○屋内</p> <p>・高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器</p> <p>○装着</p> <p>・高齢者等の外出をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器</p>	<h3>排泄支援</h3> <p>○排泄物処理</p> <p>・排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置調整可能なトイレ</p> <p>○排泄予測</p> <p>・ロボット技術を用いて排泄を予測し、的確なタイミングでトイレへ誘導する機器</p> <p>○動作支援</p> <p>・ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱などの排泄の一連の動作を支援する機器</p>	<h3>見守り・コミュニケーション</h3> <p>○施設</p> <p>・介護施設において使用する。センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム</p> <p>○在宅</p> <p>・在宅介護において使用する。転倒検知センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム</p> <p>○コミュニケーション</p> <p>・高齢者等とのコミュニケーションにロボット技術を用いた生活支援機器</p>	<h3>入浴支援</h3> <p>・ロボット技術を用いて浴槽に入り出す際の動作を支援する機器</p>	<h3>介護業務支援</h3> <p>・ロボット技術を用いて、見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器</p>
--	--	--	---	--	---

生産性向上の取組に関する研修会、介護ロボット・ICT機器の展示会②

- 10月に津市、12月に四日市市で開催
- 参加者の効率性、多くの集客を図るため、研修会・展示会を同時開催

内容	第1回	第2回
開催日	10月16日（水）	12月10日（火）
会場	三重県立総合文化センター （津市）	四日市市総合文化会館 （四日市市）
研修会参加人数	59人	39人
展示会参加人数	114人 （介護事業所91人、一般23人）	81名 （介護事業所職員59人、一般22人）
参加企業数	38社（45機器）	53社（60機器）
展示会参加者の特徴 （サービス別）	施設系44人、通所系18人、訪問系24人	施設系28人、通所系24人、訪問系10人

第1回研修会



第2回展示会



アンケート意見

- 研修会は、9割以上が大変参考になったと回答。時間も適切との声が多かった。
- 今後、生産性向上推進体制加算に対する研修会などの希望があった。
- 展示会は、次年度以降の施設での導入検討のために来場された方が多かった。
- 来場のきっかけは、センターからのチラシ配布や市町からの案内メールが6割を占めた。

生産性向上の取組に関する研修会、介護ロボット・ICT機器の展示会③

伊勢市研修会

開催日：令和6年11月15日（金）
参加者：44事業所95名
内 容：ケアプランデータ連携システムに関する研修

地域研修会・展示会（御浜町）

開催日：令和7年1月14日（火）
参加者：15名
内 容：○生産性向上に関する研修
○介護ロボット・ICT機器の紹介（3社）
○機器の展示・見学

あけあい会見学会

開催日
令和7年1月14日（火）
参加者
9名（定員10名）
内 容
○施設紹介
○介護ロボット・ICT機器の導入状況説明
○施設見学
○意見交換



成果と課題

- 津市、四日市市での研修会・展示会には遠方で参加できなかった地域の事業所からは、地域での研修会等の開催について評価を得た。
- 参加者からは、実際使用している機器の導入検討から活用までに必要な取組を詳細に聞ける機会となった等の声を得た。
- 各会とも参加事業所・参加者数も多いことから、事業所のニーズに沿った研修となったと評価できる。
- 今後、各地域のニーズに応える研修・展示会の開催していくことを課題としたい。

介護ロボット・ICT機器の試用貸出①

介護ロボット・ICT機器の試用貸出の流れ

貸出申込

- 事業所は専用の介護ロボット・ICT機器試用貸出リストから貸出希望機器を選定し、貸出を申し込む。
 - ・貸出対象：県内に所在する介護サービス事業所等
- ※原則、1事業所につき、1回の貸出（1種類の機器の貸出）
 - ・試用貸出リスト：介護テクノロジーの重点分野としての6大分野から複数製品を掲載（27機器掲載 ※令和7年2月18日現在）
 - ・展示会に参加した企業は、原則試用貸出事業にも参加し、本リストに自社製品を掲載することとしている。

試用貸出

- 下記の要件で試用貸出を実施する。
 - ・貸出期間 令和6年12月2日（月）から令和7年3月14日（金）まで
- ※1事業所あたりの貸出期間は、2週間～1ヶ月程度
 - ・介護事業所の借用費用 無料
 - ・貸出企業への貸出1回あたりの謝金 30,000円以内

試用貸出後

- 貸出終了後に事業所に対して、介護ロボット・ICT機器の試用貸出に関するアンケートを実施する。
 - ・アンケートの結果から、試用貸出の効果や貸出後の導入以降の有無等の確認を行う。

介護ロボット・ICT機器の試用貸出②

貸出実績

12件 ※令和7年2月18日現在

試用貸出リスト掲載企業 27社（分野別）

介護テクノロジーの重点分野（6大分野）	貸出機器数	試用貸出元企業
移乗支援	9事業所	①cyberdyne株式会社 HAL@腰タイプ ②株式会社イノフィス soft-power ③あかね福祉 移乗ですⅡ
介護業務支援	2事業所	①アルインコ株式会社 ラペルトーク2
見守り・コミュニケーション	1事業所	①富士ソフト株式会社 PALRO

介護テクノロジーの重点分野（6大分野）	掲載企業
移乗支援	3社
移動支援	1社
入浴支援	2社
排泄支援	2社
見守り・コミュニケーション支援	11社
介護業務支援	7社
機能訓練支援	1社

成果と課題

- 貸出実績12件のうち特別養護老人ホームが9件を占めており、施設系からの実績が多い。
- 「職員の身体的負担軽減を図りたい」という理由で試用貸出を行い、その後に導入を検討している事業所が多い。また、6大分野の中では、移乗支援に関する機器の貸出実績が多い。
- 今後の取組として、事業所のニーズを把握し、試用貸出リストの拡充等を行う。また、訪問系への機器貸出や移乗支援以外の分野の機器の貸出の拡充案についても検討していく。

専門家による伴走支援モデル事業①

生産性向上の取組を実施しようとする介護サービス事業所等に対し、介護現場の生産性向上に向けた業務内容の見直しやテクノロジーの導入等に係る専門家を個別に派遣し、助言等の支援を実施

事業概要

(1) 目的

介護現場において、生産性向上や人材確保の取組を進めるために、モデル事業所を地域で育成し周辺に取組を伝播させていく

(2) 支援回数等

1事業所あたり5回、1回あたり2時間の専門家派遣を実施

(3) モデル事業所の選定

選定方法：公募

支援対象：三重県内に所在する介護保険法に基づく介護事業所

募集期間：令和6年7月22日(月)～令和6年8月16日(金)

支援費用：無料

(4) 選定事業所

下記の3事業所をモデル事業所として選定

○社会福祉法人鈴鹿福祉会 ショートステイ鈴鹿グリーンホーム 翠風

○社会福祉法人けやき福祉会 特別養護老人ホーム 鈴鹿香寿苑

○社会福祉法人風薫会 特別養護老人ホーム 風の路

専門家による伴走支援モデル事業②

- ・介護事業所によって柔軟に対応内容やスケジュールを提案します。
- ・KPIを設定することで伴走支援後の評価を行いその結果を示します。

伴走支援の一例

1回目

- ・ヒアリング/環境確認
- ・業務の見える化支援/課題分析支援

2回目

- ・機器選定支援/選定ミスの回避方法教示
- ・ITインフラ確認および導入機器とのマッチング

3回目

- ・機器の企業との打ち合わせ同席
- ・機器導入キックオフ支援

4回目

- ・プロジェクトマネジメント支援
- ・オペレーション策定/手順書作成支援

5回目

- ・オペレーション改定支援/手順書改定支援
- ・KPI設定/評価支援

3事業所をモデル伴走支援事業として実施 全5回 (9月～2月)

事業所名	課題
社会福祉法人 鈴鹿福祉会	①データ活用とケア業務の平準化 ②情報共有
ショートステイ鈴鹿グリーンホーム 翠風 (鈴鹿市)	③安全な環境確保 ④効率化からその他業務への時間活用 ⑤時間外削減と年休取得率向上
社会福祉法人 けやき福祉会	①ヒヤリハット&事故防止 ②安眠確保
特別養護老人ホーム 鈴鹿香寿苑 (鈴鹿市)	③身体状況の確認 ④支援記録の時間短縮と正確性確保
社会福祉法人 風薫会	①ケア時間確保と時間外削減 ②機器導入による業務効率化
特別養護老人ホーム 風の路 (四日市市)	③記録・報告様式の統一化と外国人 対応 ④申し送りの正確さ向上

専門家による伴走支援モデル事業実施状況①

ショートステイ 鈴鹿グリーンホーム 翠風



基本情報

- ・ 社会福祉法人 鈴鹿福祉会
- ・ (介護予防) 短期入所生活介護
- ・ 三重県鈴鹿市深溝町字北林 2956 番地
- ・ 利用者数：20名 職員数：17名

報

支援内容

【現状の課題】 夜間の少人数での介護サービスの質の継続や交代時の利用者の状態やケア方法の共有

【課題解決の取組】

【1回目】 現状確認 見守り機器やインカム等導入し一定活用中であることを確認

【2回目】 介護テクノロジースキル評価表を作成し、スキル評価シートの完了人数からKPIを設定

【3回目】 介護テクノロジースキル評価を実施。見守り・記録・情報共有・腰痛でKPI算出を検討

【4回目】 自施設の機器と目的を結び付け、データ化して利用。自社内他施設への展開を検討

【5回目】 今まで進めてきた内容の確認と、将来に向けた施策の意見交換を実施

成果と課題

働き方改革が進んでいる。時間外削減、有給取得推進、職員の心理的負担感の軽減等に効果が表れている。例えば、離職者数ゼロや女性職員の産後復職率100%等、働きやすい職場環境の確保に成果が出ている。今後は、地域のモデルとなるよう活動強化していく方向で、職員の勉強会や経験を積む機会確保を進めていく。

特別養護老人ホーム 鈴鹿香寿苑

基本情報

- ・社会福祉法人 けやき福祉会
- ・介護老人福祉施設
- ・三重県鈴鹿市石薬師町字寺東452番地 68
- ・利用者数：80名 職員数：74名

報



支援内容

【現状の課題】夜間帯等における適切な利用者の状況確認や利用者に関わる時間の確保

【課題解決の取組】見守り機器の導入

【1回目】事業所としての方針策定・キックオフ会の実施・手順書の作成・職員教育の実施を決定

【2回目】キックオフを実施し、事業所全体で方針を共有、見守り機器を実際に使用

【3回目】見守り機器の使用後の課題を整理、機器の設定に係る簡易マニュアルを策定

【4回目】機器の設置に係る簡易マニュアルを策定、巡回数の変化からKPIを計測

【5回目】機器の操作に係るマニュアルを策定、機器の使用方法に係る講習をユニットリーダーへ実施

成果と課題

事故防止等に関しては、元々発生数が少なく比較ができないと判明。夜間の訪室回数は減少し、利用者の安眠確保と職員の負担軽減に繋がっている。利用者の状況確認も効率化が図られている。一方でセンサーの感度調整において、利用者個別の最適値を探索中。その件も含め、活用マニュアルを作成し職員教育を展開中。

特別養護老人ホーム 風の路

基本情報

- ・ 社会福祉法人 風薫会
- ・ 介護老人福祉施設
- ・ 三重県四日市市高砂町 6 - 5
- ・ 利用者数：48名（特養）※58名（短期入所含む）職員数：49名

報



支援内容

【現状の課題】テクノロジーの導入の遅れなどによる情報伝達効率の低下や処理ミス等の発生

【課題解決の取組】

- 【1回目】現状把握 導入済みの機器の使用方法や手順書の作成等についての課題を洗い出す
- 【2回目】スマホでの記録を推進していくために、事業所内アンケートを実施し、方針を検討
- 【3回目】スマホ・音声入力を活用した記録を推進。ソフトの翻訳機能で外国語への対応も可能とする
- 【4回目】アンケートを実施し、KPIを算出、結果から記録システムの自動入力の職員への定着を確認
- 【5回目】動画による操作方法のマニュアルを作成 簡易マニュアルも職員間で共有

成果と課題

0JTをこまめに実施し、職員への周知が浸透してきている。そのうえで動画マニュアルを作成し展開。申し送りの効率化が図られ、1/3に短縮。外国人職員の言語問題に関して、定型文を作成して効率化を図っている。今後は、スマホの活用方法について課題が生じていることから対策を検討する必要がある。

介護現場における生産性向上事例発表会

三重県委託事業

令和6年度みえ介護生産性向上支援センター事業

「介護現場における生産性向上事例発表会」のご案内

三重県では、介護現場における生産性向上の取組を推進するため、介護サービス事業所等からの業務改善等に関する各種相談対応や介護ロボット・ICT機器導入等の支援を行う総合相談窓口「みえ介護生産性向上支援センター」を令和6年7月1日に開設しました。

本事業の一環として、伴走型支援により生産性向上に向けた取組を行った3事業所の事例発表会、および、「株式会社善光総合研究所」の生産性向上に係る取組についての特別講演会を開催します。

- ▶開催日時 令和7年3月7日（金）
13：30～16：00（受付13：00～）
- ▶開催会場 三重県勤労福祉会館 6階講堂
（三重県津市栄町1丁目891番地）
- ▶発表内容 ①伴走型支援モデル事業事例発表会（70分）
モデル事業に取り組んだ3事業所の成果発表
②特別講演会（50分）
テーマ「善光会の生産性向上の取組について」
※発表会終了後、意見交換の場として会場を開放しますので、ご自由に参加ください。
- ▶参加定員 120名
- ▶申込方法 参加費無料
※事前申し込みが必要です。
右記二次元コードの申込フォーム又は裏面FAX申込書により申し込んでください。
- ▶申込締切 令和7年2月28日（金）
※定員に達しましたら申込を締め切ります。



<モデル事業事例発表会>

伴走型支援モデル事業とは

生産性向上の取組を実施しようとする介護サービス事業所等を公募のうえ、モデル事業所を選定し、みえ介護生産性向上支援センターの専門家派遣や助言等の伴走型支援により、業務内容の見直しやテクノロジーの導入等を行う事業

【令和6年度モデル事業事例発表事業所】

- ・社会福祉法人鈴鹿福祉会
ショートステイ鈴鹿グリーンホーム 翠風
- ・社会福祉法人けやき福祉会
特別養護老人ホーム 鈴鹿香寿苑
- ・社会福祉法人風薫会
特別養護老人ホーム 風の路

<特別講演会>

善光会の生産性向上の取組について

谷明紀氏

株式会社善光総合研究所
介護ビジネスサポート部 部長
社会福祉法人 善光会
サンタフェ総合研究室 研究員

業務改善による負担軽減や働き方改革を進めるうえで、ロボットやICT機器の活用で業界のトップをリードし、善光会より取組等を学ぶ内



ZENKOUKAI

◆開催日

令和7年3月7日（金） 13：30～16：00 （受付13：00～）

◆開催会場

三重県勤労福祉会館 6階講堂
（〒510-0004 三重県津市栄町1丁目891番地）

◆開催内容

（1）伴走型支援モデル事業事例発表会

モデル事業に取り組んだ3事業所の成果発表

- ・社会福祉法人鈴鹿福祉会
ショートステイ鈴鹿グリーンホーム 翠風
- ・社会福祉法人けやき福祉会
特別養護老人ホーム 鈴鹿香寿苑
- ・社会福祉法人風薫会
特別養護老人ホーム 風の路

（2）特別講演会

テーマ「善光会の生産性向上の取組について」

講師 株式会社善光総合研究所 部長 谷明紀氏